

宮下裕美子議員活動記録 2008.9.1 ~ 11.30

| 月 | 日 | 項目 | 分類 | 会場 | 内容 |
|----|----|---|----|------------------------|--|
| 9 | 3 | 樺戸監獄物故者追悼式(H20年度) | | 篠津山霊園 | 追悼式、オカリナ演奏 |
| | 6 | 北海道自治体学会フォーラム in えにわ | | 恵庭市 | テーマ「ひとが動く、まちが変わる」 |
| | 9 | 議員協議会 定例会(H20第3回) | | 議員控室 本会議場 | 議会運営に関する事項、町側協議報告事項 一般質問、選挙、議案審議(補正予算他) |
| | 10 | 決算特別委員会 | | 本会議場 | H19年度決算審議(一般会計、特別会計) |
| | 11 | 決算特別委員会 定例会(H20第3回) | | 本会議場 | H19年度決算審議(総括質疑) |
| | | 議員協議会 | | 議員控室 | 町側協議報告事項、議員活動(公式)の報告、他 |
| | 12 | 札比内神社祭 | | 札比内神社 | カラオケ大会出場 |
| | 21 | 雪の聖母園祭 | | 雪の聖母園 | |
| | 24 | 地域振興に関する意見交換会 | | 空知支庁 | 道条例等のヒヤリング |
| 10 | 4 | みんなの日赤奉仕団2008 | | 多目的研修 | 講演、非常食の実演、活動展示、バザー |
| | 5 | 友朋祭 | | 友朋の丘 | |
| | 8 | 月形町子育て講演会 | | 多目的研修 | 「子どもの笑顔を消さないで」 三浦由美子先生 |
| | 10 | 全道女性議員協議会第7回実行委員会 | | 岩見沢市役所 | |
| | 16 | 第56回北海道女性議員協議会 総会 | | 岩見沢市 | テーマ『女性の視点で変えよう まちづくり』 |
| | 17 | 第56回北海道女性議員協議会 総会 | | | 議案審査、講演とDIG演習(道教大・佐々木貴子先生) |
| | 21 | 乳幼児検診とブックスタートの調査 | | 保健センター | |
| | 25 | 月形高校60周年記念式典 | | 月形高校 | 講演「宇宙へ～ロケット開発の現場から」岡田匡史氏 |
| | 28 | 月形町議会道外視察研修(第1班) | | 広島県～ 京都府 | 広島県三次市:第3セクター(株)君田21・森の泉 広島県世羅町:世羅高原6次産業ネットワーク 京都府南丹市:八木バイオエコロジーセンター |
| | 29 | 月形町議会道外視察研修(第1班) | | | |
| | 30 | 月形町議会道外視察研修(第1班) | | | |
| | 31 | 月形町議会道外視察研修(第1班) | | | |
| 11 | 3 | 子供会親睦ミニバレーボール大会 | | 総合体育館 | |
| | 4 | 産業建設常任委員会 月形町表彰式 | | 委員会室 南札・南耕地 はな工房 | ・新規就農対策の取組状況(調査と現地視察) ・雁里地区地域再編計画の検討状況 町政功労者賞、貢献賞 |
| | 5 | 総務民教常任委員会 | | 委員会室 | ・町内の防犯体制 ・衛生センターの管理運営状況 |
| | 7 | 臨時会(H20第3回) 全員協議会 | | 本会議場 議員控室 | 一般会計補正予算専決処分の承認、固資評委員の選任 名称変更(議員協議会 全員協議会)公的な位置づけ |
| | 11 | 月形町国民健康保険運営協議会(H20第2回) 南空知国保運営協議会委員・ 町村職員事務担当者合同研修会 | | 月形町役場 長沼町 | 出産育児一時金の支給額改正 「国民健康保険をとりまく最近の情勢」 「後期高齢者医療制度の創設と国民健康保険制度」 |
| | 12 | ちょこっとゼミ学問体験 | | 月形高校 | 大学・短大の授業体験(専門教官による模擬授業) |
| | 13 | 町政(まちづくり)懇談会 | | 多目的研修 | 行政(町理事者・地域担当者)と住民との懇談会 |
| | 14 | 感謝の集い・体験発表会 つきがた水環境を語る集い | | 月形小 月形排水機場 | 八木節、総合学習体験発表、もちつき 月形排水機場の役割周知、オカリナ演奏「水と自然」 |
| | 21 | 公開授業研究会 | | 月形小 | 6年生国語(公開授業・研究協議) |
| | 28 | 月形教育研究会(第1回) | | 月形小 | 月形小の取組「自分の想いや考えを表現する力を培い、 互いに高めあえる児童の育成」公開授業・研究協議 |
| | 29 | 廃棄物学会北海道支部セミナー(H20年度) | | 札幌市 | 「発信! 北海道の循環型社会に向けて」 |

分類 一 :議会活動、 :議員活動(公式)、 :議員活動(個人)、 :地域活動、 :議員会活動(親睦団体)
定例会、臨時会、特別委員会の詳しい内容は【町民サロン】と【月形町ホームページ】>議会>議会のうごき】で公開。
上記の議員活動について、詳しい内容と感想などをブログ「ゆみこの日記」で公開しています。

編集後記

この号を何とか年内に発行することができ、肩の荷が下りました。有言実行はなかなかしんどいものですね。議員の仕事は日々の積み重ねです。でも重ねるだけでは身にならないとも思っています。何をどれだけ積むのか、どうやって身にするのか、一人ひとりが試されているようにも思います。私は、この報告書の発行で多くのことを身につけることができました。ありがとうございます。
さて、まもなく平成21年(2009年)、どんな年にしましょうか?
夢を持ち、夢に向かって一歩ずつでも前進できる年でありませうように。
みなさんのご多幸を祈っています。



ゆみこの 議員活動 報告書

2008.12.25

6

未来への投資をどう考えますか?

奇しくもこの号では「月形高校」と「学校給食」という未来を担う子供たちに関する話題が中心になりました。

厳しい財政、不景気など「耐え忍ぶ」イメージが強い昨今ですが、故郷や自分自身に誇りを持ち「心輝く」子供たちが育って欲しいと思っています。



発行 宮下裕美子(月形町議会議員)
樺戸郡月形町市南1 TEL・FAX 0126-53-2611
メール mail@yumiko3.net
ホームページ http://www.yumiko3.net/
ゆみこの日記 http://www.yumiko3.net/blog/

月形高校存続のための支援(平成20年度一般会計補正予算)

北海道教育委員会(道教委)が進める道立高校再編整備は、1学年2学級以下の高校(月形高校と同規模。道内に約100校)の場合、5つの基準を総合的に勘案して進められています。このうち月形町として対応できるのは以下の2つです。

募集定員(80名)に対する欠員をできるだけ少なくする 入学者が41人を切った場合、学級減(1学年1学級)になる
地元中学校からの進学率をアップする(月形中学校卒業生の60%以上が月形高校に進学することが望ましい) 地元からの進学率が低下すれば、募集停止の要因になる

【道立高校再編整備の流れ】

学級減(1学年1学級) 募集停止 廃校

月形町では全町あげての署名運動など、町ぐるみで月形高校存続を願っていること、月形高校が小規模校でありながら特色ある教育を行い成果を上げていることなど、道教委の印象は良好です。しかし、先の基準を超えなければ様々な努力は水の泡となってしまう可能性が高いのです。

そこで今回、「月形中学校からの入学者に対し入学奨励金10万円」という事業を展開することになりました。(平成20年度一般会計補正予算、12月定例会で承認。)この10万円は月形高校入学時に必要な経費とほぼ同額です。

月形町では「高等学校教育振興事業」として平成20年度当初予算で508万円(交通費助成230万円、資格取得費用半額助成等その他の助成事業に278万円)を計上しています。これに今回の入学奨励金250万円(10万円×25人分)が新たに組み込まれました。また来年度では、これらに加え交通費助成を大幅に復活させるよう検討しているとのことです。

ゆみこの目

『月形高校の存続』は多くの町民が望んでいることではありますが、少子化は着実に進んでいます。入学奨励金や交通費補助によって入学者がどれ程増えるのかは疑問ですが、それほどこまでに切羽詰まった状況だということです。

私は議員になってから『月形高校の特色ある取り組み』を見てきました。生徒一人ひとりに合わせたきめ細やかな教育や、大学等の出前授業・就業体験など視野を広げる努力は素晴らしく、高校教育を「将来大きく羽ばたくための基礎作り」として捉えた場合、月形高校の持つ力は大きく、それを支える先生方の努力と気概にも頭が下がります。

月形高校の存続は、子供たちの高校選択の幅を広げるばかりでなく、月形町の経済や交通機関の維持、町民の心のよりどころにも大きく影響する問題です。様々な要因を勘案しながらも、未来に繋がる支援ができれば・・・と考えてます。

学校給食の運営方針について



質問・宮下

今年、学校給食法が大幅改正され、給食の主要目的が「栄養改善」から「食育(食や文化の大切さ、栄養バランスなどを学ぶこと)」に転換した。月形町においては以前から「食育」や「地産地消」に熱心に取り組んでいる印象だが、現在の学校給食の運営方針はどのようになっているのか。教育長に伺いたい。

回答・教育長

我が町の学校給食運営方針は「安心・安全」「地産地消」である。安心・安全面では食中毒を起こさないよう衛生管理を徹底し、食材も吟味している(問題の起きた餃子などは使用していない)。また、主食の米や野菜はできるだけ月形産を使用している。



再質問・宮下

今年度に入り食材や燃料などあらゆる物が高騰している。今後の学校給食の運営に際し、「安心・安全」「十分な食育」を堅持しようとすればある程度の費用がかかるのは必須。運営方針と給食費のバランスについて、具体的な運営基準はどのようになっているのか。

再回答・教育長

月形町では食材分を「給食費」として保護者が負担している。現実には物価は高騰しているが、保護者から預かっている大切な給食費はメニューやコストを意識し工夫しながら有効に使っている。しかし、カロリーや栄養が基準を満たせない場合は値上げせざるを得ない。この事については学校給食運営委員会で検討中である。



再々質問・宮下

今の答弁ではカロリーや栄養などの栄養改善面のみに着目した運営のように取れる。食育が主要目的であるならば、メニューの数や質を落とさず、行事食なども取り入れた中で運営していく必要があるのではないか。また、そのために給食費が大幅に値上げされるのであれば、町の施策として給食費の保護者負担割合の見直しは考えられないか。

再々回答・教育長

施策に関しては私の答える範ちゅうにない。給食の目的には「明るい学校生活のため」も含まれる。少ない金額でも工夫して夢のある給食を目指したい。なお倫理なことからも「食材費=給食費」という方針は続けていきたい。今のところ概算で1食10~20円の値上げとなるであろう。今後給食費値上げの際は、その理由と給食内容を保護者にキチンと説明していきたい。

栄養教諭の業務について

質問・宮下

栄養教諭は、学校における「食育」の推進を目的にできた制度で、月形町では今年4月から月形小に配置された。

今年度の教育執行方針に「各学校の『食』に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせることに取り組む」とあり、食育への取り組みがより一層強化されるものと思ったが、疑問が残る。

以下の3点について教育長に伺いたい。

1. 月形町における栄養教諭の配置目的と業務内容はどのようになっているのか。
2. 今年度の教育執行方針を実現させるために、今後どのように取り組むのか。
3. 栄養教諭本人の努力だけでなく、行政や学校側からのサポートはないのか。

回答・教育長

1. 私も栄養教諭の配置制度で食育の強化ができると考え、当初良い制度だと思った。しかし実態は「給食センターの栄養士」と「食育を指導する専門教員」の一人二役をこなさなければならない、問題のある制度であった。今年度は初年度で試行錯誤中であるが、栄養教諭本人の努力と熱意で今まで通りの食育や出前授業も行っていく計画である。

2. 制度がある以上、形は変えられない。しかし栄養士が栄養教諭になったのであるから、食育の部分の量は同じでも質が向上するであろう。

3. サポートに関しては、色々な場で「栄養教諭の一人二役制度」から「独立して食育に専念できるような配置」になるよう要望していきたい。また、各学校の校長や先生方にもご理解いただき、応援してもらいたいと考えている。

道外行政視察研修(広島・京都方面 2008.10.28~31)の報告

月形町議会では、先進的な取組や実績を上げている自治体を視察し議会活動に活かすことを目的に、道外への行政視察を行っています。議員1人につき4年間に1度、全体を2班(各5人)に分け、今年度と来年度で実施します。今回は第1班として、吉田議長、鳥潟議員、堀議員、楠議員と私が参加しました。なお行政視察研修にかかる経費は「月形町議会議員の報酬および費用弁償に関する条例」に基づき支出されています。



広島県三次(みよし)市

第3セクター(株)君田21の取組について

合併前の君田村(人口約2千人)時代(平成8年)に温泉施設『森の泉』を中核として設立された、住民出資の第3セクター。「ふるさと創生1億円」がこの事業のきっかけ。平成12年には豊かな村づくり賞「農林水産大臣賞」受賞。

現在、温泉・道の駅・加工品製造販売・美術館・健康福祉活動等の事業展開で、従業員68名、年間売り上げ約5億円、交流人口25万人。

成功の鍵は、3セクでありながら「地域株主の目」により民間感覚でできたこと、3セクだからと言って遠慮せずに口出し、手出し、支援した行政の力、そして「人」。この事業のカギとなる古川常務は当初役場職員であったが、腰を据えて事業展開するため社員に。従業員それぞれが一人三役をこなす気概と努力で発展してきた。

広島県世羅町

世羅高原6次産業ネットワークについて

農業(1次産業)に加工(2次産業)流通・販売(3次産業)を掛け合わせ、産地の活性化と農業経営の安定化を目指した事業。「グリーンツーリズム大賞2007」他を受賞。

国営改畑事業の後始末がきっかけ。やせた土地・農業者の高齢化・担い手不足等に対処するため、普及員が中心になって旧世羅郡3町で6次産業推進活動を展開(目標は富良野・美瑛)。将来像(ビジョン)とメリットを繰り返し伝え続け、情報交換を密にし、一緒に行動することによって農業者の考えを1次6次産業に転換、広がりをみせた。

男女がともに特性を生かし参画していることも成功の秘訣、元気の源。

京都府南丹市

八木バイオエコロジーセンター(現地視察)

南丹市の旧八木町はバイオマス利活用に積極的で、日本初のメタン発酵によるバイオガスプラント(乳牛と豚の糞尿、おから等)と、堆肥施設(肉牛糞尿、メタン発酵後の脱水物)が稼働している。

バイオガスプラントで生産された「電気」は、施設内および隣接の下水処理場で使用、残りは売電。回収された「熱」は堆肥の乾燥に。残渣物である「消化液」は脱水後、堆肥化されている。

この施設運営は毎年赤字(消化液の水質浄化に莫大な経費がかかるため)。消化液を液肥としてそのまま散布できれば黒字化できるであろう。ただ、プラント建設には莫大な費用がいること、2,3年に1度は修理が必要なこと等が問題。最近は改良型のプラントも続々登場、よりシンプルな構造になっている。(技術的に発展途中)

